

# 学園だより

温故  
創新

義務教育学校 八女市立

上陽北湊学園

JOYO-HOKUZEI compulsory education school

第2号 令和3年6月発行

文責 校長 牛島 俊哉



増える 「全国の義務教育学校」

求められる 「義務教育学校の特長を生かした教育」

下に、3つの数字を出しました。

① -213

② -80

③ +32



この3つの数字は、令和元年度から令和2年度にかけての学校数の増減を表しています。①は全国の小学校の数、②は中学校の数、③は義務教育学校の数の増減です。全国の小学校は、1年間で213校減っています。中学校は、80校減っています。しかし、義務教育学校は、32校増えています。今後、義務教育学校の必要性が増し、さらに学校数が増えていくと考えられます。

義務教育学校が増えている理由として、大きく2つあるようです。1つ目は、児童生徒数の減少などの環境面の変化へ対応することです。2つ目は、義務教育の9年間を見通した効果的な教育活動が実践できることです。これから、さらに義務教育学校の特長を生かした教育が求められていくと思います。上陽北湊学園では、2つ目の理由を重視して、義務教育学校ならではの効果的な実践を積み重ねていきたいと考えています。

義務教育学校の強みとして、「1年から9年までの幅広い年代の子どもたちが一緒に生活していること」「中学校の先生と小学校の先生が、1つの学校にいて協力していること」があります。この強みを生かし、以下のような活動を計画していきます。

## ○リーダーシップを高める活動

- ・各科の最上級生（4年、7年、9年）として、リーダーを経験する活動を行う。※裏面参照

## ○数学の先取り授業

- ・6年生の終わりに楽しく中学数学に触れさせ、7年生の数学にスムーズに移行する。

## ○国際理解学習

- ・英語学習と総合的な学習を関連させ、ハワイの学校と交流し、英語力・国際理解力を高める。

学校として、十分な成果を上げていないこともまだまだあるのですが、「学力が向上している」「子どもたちが仲良く協力し合う姿が多く見られる」などの成果も出てきています。子どもたちのがんばりと保護者・地域の皆様の協力のおかげだと感謝しております。今後、保護者アンケート等の機会をつくり、いただいた意見を生かしながら、子どもたちと保護者の皆様が安心して満足できる学校づくりに努めていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# リーダーシップを高める活動

三科制（初等科、中等科、高等科）をとっている上陽北浜学園では、義務教育9年間の間に、リーダー学年となる経験が3回あります。初等科4年生、中等科7年生、高等科9年生の3回です。（一般的な学校では、小学校6年生と中学校3年生の2回）子どもたちの発達段階に合った活動を行い、リーダーシップを高めています。

下の写真は、児生会の委員会活動について、中等科リーダーの7年生が5年生からの質問に答えているところです。自分の体験を5年生に具体的に話しています。本年度も7年生がリーダーとなり、よりよい委員会活動をつくってくれることでしよう。そして、この経験は、高等科での生徒会活動に生かされています。



## 初等科「たてわりなわとび」

4年生は、1～4年生がもっと仲良くなって楽しい学校生活が送れるように、「たてわりなわとび」を計画しています。現在、たてわり班ごとにチーム名が決まっています。

## 高等科「児童生徒総会」

高等科では、児童生徒会役員のみならず、児童生徒総会（全校の児童生徒参加、6月2日開催）の準備を進めています。31ページからなる立派な総会要項が配布されました。

## 人権の花運動

八女市・福岡県人権擁護委員連合会による「人権の花運動」が行われています。本年度は、本校でも実施され、3年生にひまわりの種をいただきました。人権の花運動について話をした後、種まきをしました。大きく育ててほしいです。



↑ ひまわりの種まきをしている3年生

